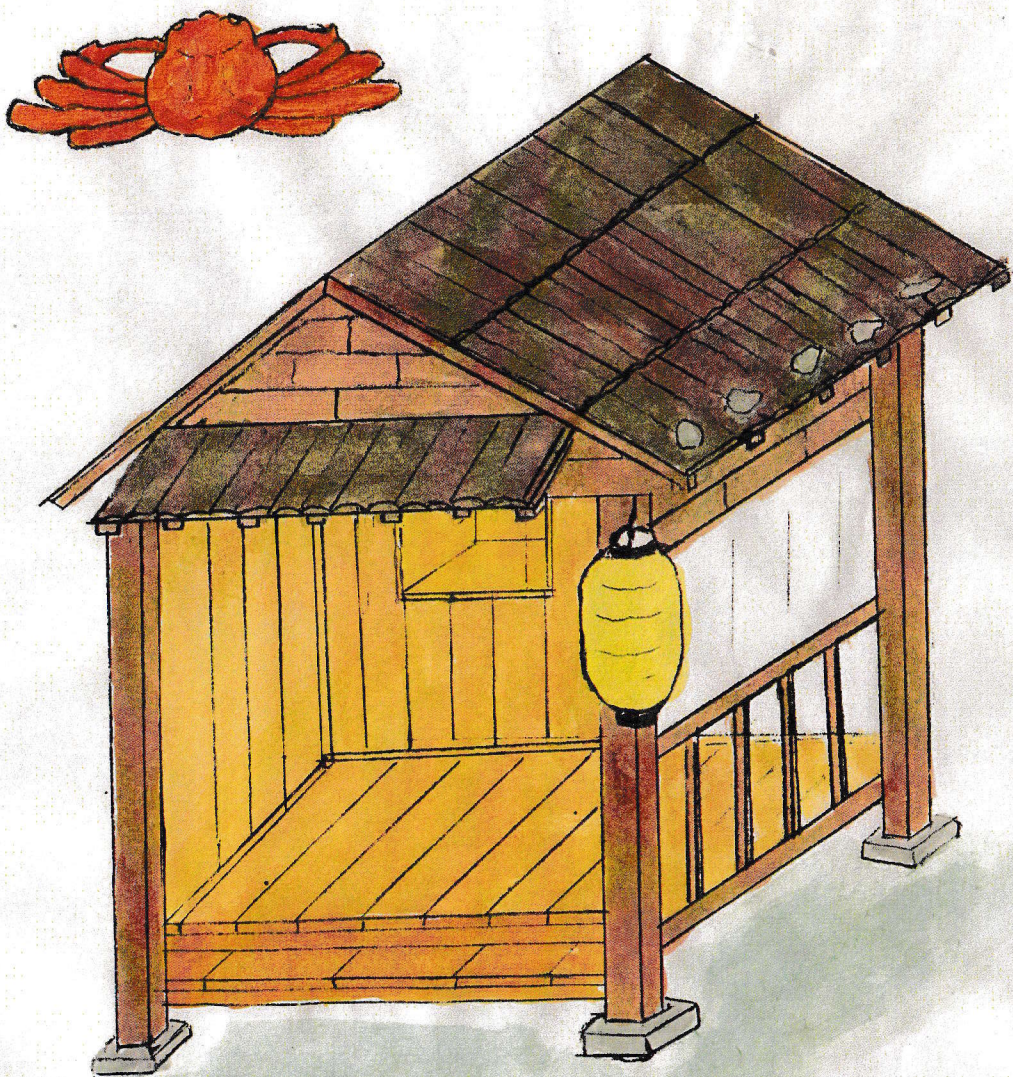


ほんの四百年前の昔、この「かじかせ川」には渡し場がありました。船の船頭さんもおりました。船の安全運航のご加護を得たくて小倉山の高台に「金比羅宮」を建てました。時には日暮れや夜明け前の運航も有り、船付き場所の目安となる灯りを掲げました。



川には沢蟹がおり、宮の中に赤い沢蟹の額が奉納されていました。近くの住民の中には近年まで蟹を食べない家もありました。角館の北家の殿様も久保田への参勤にはこの渡し場を利用し、刈和野や稻沢を経由して向かいました。渡し場の近郷の人達や古老の方から話を聞き、想像図を描いてみました。